

国際社会で活躍できる子に

校長 相川 保 敏



保護者の皆さまには、学習発表会に際しまして、多数のご参観や衣装準備等のご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。新型コロナウイルス感染症の広がりも落ち着き、通常開催に近い形で実施できました。子どもたち一人一人が自分の役割や演技を一生懸命に取り組んでいました。出演を終えた後のほっとした表情や満足そうな笑顔が印象的でした。

この学習発表会では、歌や演技だけでなく、学年によって食物連鎖、いじめ問題、SDGsなど、今日的な課題に目を向ける内容も織り込まれています。6年間の学習発表会での経験を通して、一回りも二回りも成長してくれるのではないかと思います。これからも大切にしていきたい教育活動だと考えます。

学習発表会での子どもたちの姿を観て幸せな気持ちに浸る一方で、毎日のようにガザ地区でのイスラエルとハマスの軍事衝突についてのニュースが入ってきます。この地区では、犠牲者の多くが水や食料が不足し、緊急的な食料支援が必要となっています。エジプト経由の緊急物資輸送も思うようには進んでいないようです。爆弾が飛び交い、家が崩壊し、水や食料が不足し、命の危険にさらされている人々は、まるで、空襲におびえ、死と隣り合わせの中で飢えをしのいでいた戦時中の日本と同じではないかと思います。過去の日本と同じような苦しみの中にいる人々を何とか救って方法はないのか、考えさせられます。この地区の多くの子どもたちが犠牲になっているという報道を聞くとさらに心が痛みます。

しかし、こうした武力紛争はガザ地区だけでなく、ウクライナ、アフガニスタン、シリア、イエメンなど世界各地で起こっています。紛争の原因も、宗教・民族・人種・政治・経済など様々です。共通するのは、命の危険にさらされ、食糧不足や医療を受けられない人々が世界中にいるということです。

本校では、ご存じのように、正解が見いだせない課題に対しても、多様な人々と協働し、何とか解決方法を見出していく能力の基礎を身に付けることを目指しています。そして、国際社会で活躍できる人になってほしいと願っています。

日本人が国際的に活躍するための条件として、文学院院长副学長で、教育の国際比較、多文化教育の研究者である恒吉僚子氏は、次のように述べています。

そもそも英語だけが日本人が「国際的に」活躍するにあたってハードルになっているのではない。「国際的に」発信するためには、国際的に議論になるような話題に「ピンとこない」ようでは困るのである。そして、「ピンとこない」と困る話題には、前述の民族や人種、宗教やジェンダーなどが含まれる。英語力ほど見やすくはないが、こうした話題に対する「国際感覚」は、今のように多様な人々が共存する世界にあって必須のものであろう。また、異なる文化的背景を持つ人々が増えて多様化してゆく日本社会では、社会内でもこのような話題に「ピンとくる」ことがますます大切なのである。

『新グローバル時代に挑む日本の教育—多文化社会を考える比較教育学の視座』より

本校の子どもたちは、英語はもちろんのこと、学習発表会、国際交流活動、社会貢献活動などを通して、「ピンとくる」子が多く育っています。近い将来、相山小学校の子どもたちが成長し、国際紛争・温暖化・食糧問題など国際的な課題に対しても、多様な人と知恵を出し合い、多くの人が納得できる解を見出していく場にいるのではないかと期待されます。ご家庭でも、こうした課題に触れられる機会をつくっていただくと有難いです。

さて、11月の生活指導のめあては「考えたことを守ろう」です。子どもたちがどんなことを考え、どのように守ろうと取り組んでいくのか、楽しみます。